

波郷記念館だより

第三十一号



発行日
平成 28 年 3 月 20 日
発行元
江東区砂町文化センター
〒136-0073
東京都江東区北砂 5-1-7
電話：03(3640)1751

第十五回 石田波郷記念 「はこべら」俳句大会授賞式

三月十三日(日)砂町文化センターにて、「はこべら」俳句大会の授賞式が行われました。今年度の投句数は七百六句。この中から「はこべら」賞と石田波郷記念館賞の大賞二句、各選者の先生方が選ぶ特選十四句、入賞五十句の表彰を行い、また、選者の先生方による句の講評をいただきました。



左から 上田日差し先生、大串章先生、鈴木しげを先生、徳田千鶴子先生

■はこべら賞■

読初の「惜命」に襟正しけり

愛知県 古賀勇理央

波郷を偲ぶ句の中で最高点を獲得した句

■石田波郷記念館賞■

四季雑詠句の中で最高点を獲得した句

朝月の弦のゆるびに紫木蓮

江東区 観音堂松雄



今年度は装丁も新しくなり、より一層素晴らしい作品集となりました。

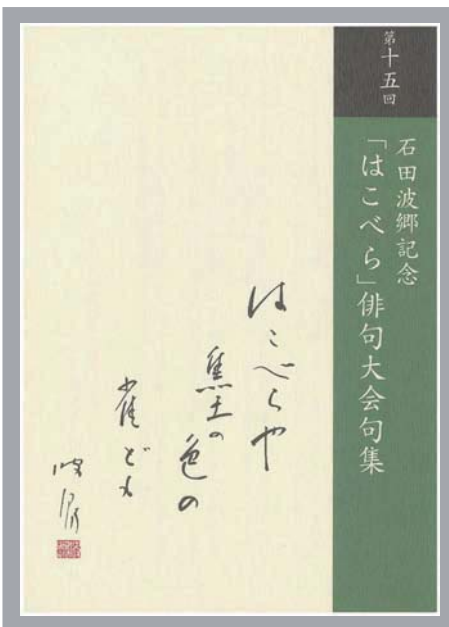
是非一度お手に取ってご覧ください。

★一冊 五〇〇円 (税込)

▶古賀勇理央さん(上写真)と観音堂松雄さん(下写真)。

受賞された皆さん、本当におめでとうございます。

★受賞作品を始めとする、二十七年度の全投句が掲載された句集を砂町文化センター窓口にて販売しています。



俳句鑑賞講座 旅の愉しみ編

講師 ■ 俳句結社「鶴」主宰 鈴木しげを

俳句結社「古志」主宰 大谷弘至

写真家 中谷吉隆

多くの俳人は旅をし、そこで得た感動を俳句に詠みました。

この講座では「旅」をテーマに、松尾芭蕉や小林一茶、石田波郷らが残した名句を鑑賞します。

講師には「鶴」主宰・鈴木しげを氏（第一回目講師）、「古志」主宰・大谷弘至氏（第二回目講師）という俳句界を先導するお二人と共に、写真家であり、フォト俳句の第一人者でもある中谷吉隆氏（第三回目講師）にお越しいただきます。



★講座情報★

日程：5月28日（土）・6月25日（土）・7月16日（土）
回数：全3回
時間：13時30分～15時（90分講義）
定員：25名
受講料：3,500円（全3回分）
教材費：100円（全3回分）
会場：砂町文化センター 2階 第1会議室

申込は3月24日まで。
ただし、申込状況によっては、25日以降も先着順で受付けます。詳しくはお問合せください。
(03-3640-1751)

もろい弱いぐどい自意識を捨て、かゝると、旅の其地や人心の面白さは一入である。さういふ旅を試してみたいと思ふやうになつてから、こんど一度旅行をすれば必ずいゝ句を作ると考へ直したのである。
——石田波郷
〔旅行より一部抜粋
「鶴」昭和十三年五月号〕

石田波郷記念館販売書籍情報

※石田波郷記念館においての書籍の販売は窓口のみです。郵送・宅配等は行っておりません。

波郷句自解 石田波郷著



梁塵社 1,296円（税込）

わが父波郷 石田修大著



白水社 1,404円（税込）

『波郷百句』（昭和二十二年）など波郷自身の自註、自解、随想集を収めた一冊です。妻あき子の『波郷句鑑賞』も収録。波郷の句を愛する全ての人へ向けた必読書です。

波郷の長男である石田修大氏著の『わが父波郷』。家族が、息子が見た父の姿とは。波郷の新たな一面を知ることの出来る静かで味わい深いドキュメンタリーです。

我生きてこの句を成せり

石田修大著



本阿弥書店 2,700円（税込）

「書き終えて改めて思うのは、あの時代の俳人たちが、信じられぬほどの熱意で俳句に取り組む姿である。（あとがきより）」——波郷の息子として若き父の青春時代を追った珠玉の一冊です。

展示資料の話 波郷と写真

記念館では、波郷が愛用していたカメラを複数所蔵し、展示しています（写真）。

波郷と写真の出会い、清瀬で結核の療養をしていたときのこと、同じ療養仲間がカメラをいじっているところを見て興味を持ち始めました。

「秒の百分の一にしか生きておられないやうなことを「表現」としてでなく、そのまま写し取める。カメラでしかできない芸当である。これが私には面白くて仕方ないのである。」（『続療養写真術』俳句研究 昭和二十八年十二月臨時増刊号より）

それから波郷は吟行の伴侶としてカメラを持ち歩くようになりました。下記写真のものは「ローライフレックス」。随筆にもたびたび登場する、波郷の大切な相棒です。



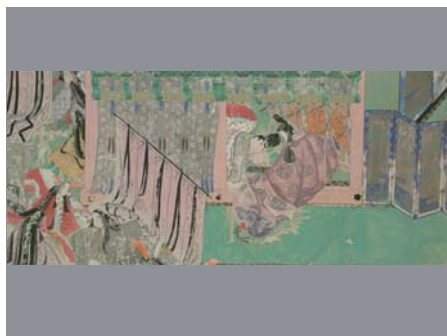
春の講座受講生募集中

鑑賞・教養

絵巻鑑賞講座

～王朝の美と生活編～

絵巻は、物語を楽しむだけ、あるいは、美しさ愛でるだけのものではありません。絵巻とは、制作当時の人々の生活、起こった事件や信仰など、ありとあらゆる情報が詰まった第一級の歴史資料です。人気の絵巻講座第2弾となる今回は、『源氏物語絵巻』『伴大納言絵巻』を中心とした「王朝絵巻」の魅力を探っていきます。



源氏物語絵巻（写）国立国会図書館蔵

講師：山本 聡美（共立女子大学文学部教授）

- ◆木曜日・全3回・18:30～20:00
5/12、5/26、6/16
- ◆受講料：3,500円
- ◆教材費：100円

鑑賞・教養

「カワイイ」の原点はここにあった ～麗しの少女雑誌の世界～

1908年に創刊、執筆陣に川端康成や吉屋信子が名を連ねた『少女の友』、戦後、中原淳一が創刊した『それいゆ』等、明治、大正、昭和を通して、少女の流行を牽引してきた少女雑誌を観ていきます。華やかな表紙や挿絵等のヴィジュアル面を中心に、文豪が手掛けた文芸と併せて、現代へと通じる「カワイイ」文化の源を探っていきましょう。



竹久夢二画『女学生』大正12年4月号表紙
「薔薇の露」（竹久夢二美術館蔵）

講師：中村 圭子（弥生美術館学芸員）ほか

- ◆水曜日・全5回・14:00～15:30
5/18、6/1、6/15、7/6、7/20
 - ◆受講料：6,000円
 - ◆教材費：200円
- ※このほか外出講義時に実費負担があります

文学・歴史

真田昌幸・信之・信繁（幸村）に学ぶ ～激動の時代を生き残る処世術～

信州真田郷を本拠とする真田氏は、武田、上杉、北条、織田、徳川の大大名に囲まれるなか、様々な難局を智恵と知略をもって切り抜け、その強かな生き方や戦術により、関ヶ原や大坂の陣でのお家存亡の危機を乗り越え、ついには近世大名として生き残りました。真田昌幸・信之・信繁（幸村）を中心に真田氏の歴史について、大河ドラマ「真田丸」の時代考証を担当する講師が解説します。



真田信繁画像（真田宝物館所蔵）

講師：丸島 和洋（国文学研究資料館研究部特任助教）

- ◆水曜日・全8回・19:00～20:30
5/11、5/25、6/8、6/22、7/6、7/20、9/7、9/21
- ◆受講料：9,800円
- ◆教材費：200円

お申込み期間

3/24

(木) まで

※はがき・FAXは24日(木)必着
※定員を超えた場合は抽選となります。

お申し込み方法

※25日(金)以降は先着順にて受け付けます。詳しくはお問い合わせください。

①窓口 ※第1・3月曜日は休館日です。（ただし祝日は開館）

②電話 **03-3640-1751** ③FAX **03-5606-5930**

④はがき 〒136-0073 東京都江東区北砂 5-1-7

⑤インターネット <http://www.kcf.or.jp>

※インターネットからの講座申し込みには「受講生登録」が必要となります

はがき・FAX 記入例

- ① 砂町文化センター・講座名
- ② 氏名・ヨミガナ
- ③ 生まれ年（西暦）・性別
- ④ 郵便番号・住所
- ⑤ 電話番号・FAX 番号

思い出の1964東京オリンピック展

オリンピック東京大会が2020年に開催されるのを記念して、1964年に開催された東京大会を当時の新聞、雑誌、記念品などで振り返る「思い出の1964東京オリンピック展」を1階ロビーにおいて展示しました。

主な展示を紹介しますと、オリンピック閉会までを伝える写真ニュース、郵政省発行の記念切手、聖火台と五輪をデザインした100円硬貨、日本陸上競技後援会記念メダル、銀行が配付した貯金箱、国鉄発行で赤色の五輪



マークが印刷された往復乗車券、閉会式や競技のハイライトを伝える新聞、雑誌など。そのほか、参考として2020年オリンピック・パラリンピック会場配置図を展示しました。

展示期間中、多くの来館者が展示資料に見入り、当時の様子を思い出されていたようでした。 ※展示は現在終了しています。

すなまちクロスワード 第4回

たて

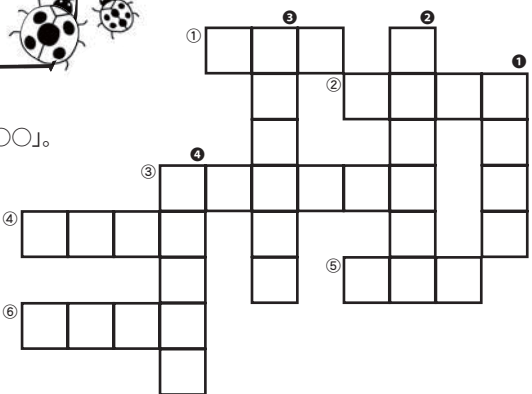
- ① 東大島にある資料館。「〇〇〇〇船番所資料館」。
- ② 石田波郷が結核治療のために受けた手術で体内に入れたもの。「胸の中の〇〇〇〇〇〇」。
- ③ 枝がやわらかく枝垂れる桜の総称。
- ④ 大河ドラマ「真田丸」。真田氏の本拠地は「〇〇〇〇〇真田郷」。

よこ

- ① ツツジ科の常緑の大形低木。石田波郷が所属していた結社の名前。
- ② 砂町地区は「北砂」「東砂」「南砂」「〇〇〇〇」からなる。
- ③ 「砂町」の由来となった江戸時代の農民。「砂村〇〇〇〇〇〇」。
- ④ 『江戸名所図会』や『東都歳時記』などの著者。「斎藤〇〇〇〇」。
- ⑤ 絵画形式の1つ。横長の紙をつないで長い画面を作り、人々の生活や事件などを連続して表現したもの。
- ⑥ 中原淳一が創刊した少女雑誌。フランス語で「太陽」のこと

Let's Challenge!

砂町や江東区についてのクイズが入っているよ!



答えは、今号の記事の中からも出題しています。



★こたえはこのページ下です

地域コラム

砂町をめぐると都営バス



-最終回 電21系統 亀戸駅～東陽町駅-

今回の系統は亀戸駅と東陽町駅を結ぶ電21系統です。車内放送では砂町文化センターのご案内が流れる系統ですが、本数が少ないうえ、東陽町までは大回りをするために、積極的にはご案内をしておりません。

砂町文化センターに最も近い北砂5丁目を出た東陽町駅行きのバスは、亀高橋交差点を左折し葛西橋通りに入ります。葛西橋を左手に見て袖ヶ浦のバス停を過ぎるとこの系統イチのハイライト区間、元八幡通りに入ります。

ガードレールの無い片側1車線の狭い道路を大型の路線バスが車体をくねらせて走る姿は、江東区内では珍しい風景です。

およそ30分程度の小旅行で東陽町に着きますので、お急ぎでない方は都会の狭隘路線に行く都営バスを楽しむのも一興でしょう。

さて、連載の最終回に都バスの豆知識をご紹介します。

この路線を走るのは、錦糸町駅近くにある江東営業所のバスです。バスの入口の脇にL-Z520(江東)などと書いてあるのを見かけるかも知れません。この記号は何を意味するのでしょうか。

最初のLは江東営業所を示します。数字は100から799の連番です。数字の前のZはバスの購入年で平成26年度に購入された事を示しています。

この3月までの平成27年度の新車はアルファベットが最初に戻りAが付けられています。

逆に最も古い記号は平成14年や15年のKやLとの事です。



入口の横にある局番



電21 亀戸駅～東陽町駅 最寄バス停 北砂5丁目

すなまちクロスワード こたえ

【たて】① なかがわ ② びんぼんだま ③ したれぎくら ④ しんしゅう

【よこ】① あしび(馬酔木) ② しんすな ③ しんざえもん ④ げっしん(月岑) ⑤ えまき ⑥ それいゆ